

第 103 回 理事会・拡大執行委員会 議事録

日時：2023 年 2 月 1 日（水曜日）9 時～13 時

開催方法：Web 会議システム（Zoom）利用

【出席者（Web） 34 名】※敬称略

[理事]

柚崎 通介（会長）、岡部 繁男（副会長）、加藤 忠史（副会長）、磯村 宜和（庶務理事）、大塚 稔久（副庶務理事／大会委員会委員長）、宮川 剛（副庶務理事／将来計画委員会委員長）、山中 宏二（会計理事）、Thomas J. McHugh（機関誌理事／NSR 委員会委員長／将来計画委員会 機関誌 WG 委員長）、岩坪 威（理事）、大木 研一（理事）、大隅 典子（理事）、奥山 輝大（理事）、笠井 清登（理事）、木山 博資（理事）、小林 和人（理事／第 46 回大会長）、定藤 規弘（理事）、銅谷 賢治（理事）、林（高木） 朗子（理事）、林 康紀（理事／脳科学辞典編集委員会委員長）、尾藤 晴彦（理事／将来計画委員会 日中韓 WG 委員長）、藤山 文乃（理事／奨励賞選考委員会委員長）、渡辺 雅彦（理事）

[委員会委員長]

奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、掛川 渉（ホームページ委員会委員長）、合田 裕紀子（国際連携委員会委員長）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、花川 隆（倫理委員会委員長）、平井 宏和（将来計画委員会 学会体制 WG 委員長）、古屋敷 智之（神経科学ニュース編集委員会委員長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）、吉本 潤一郎（情報基盤整備委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長）

【欠席者 2 名】※敬称略

尾崎 紀夫（臨床・関連学会連携委員会委員長）、岡野 栄之（理事）

【報告事項】

- 1) 磯村宜和庶務理事から会員構成や入退会者数、協賛後援名義に関する報告があった（資料 A）。会員数は、年度末にて除名予定の人数を勘案すると、ほぼ前年と同等であることなどが報告された。
- 2) 小林大会長より、第 46 回（2023 年）大会の準備報告が行われた。各種シンポジウムや主要なプログラムの演者が決定したことに続き、一般演題および国内／海外 Travel Award の募集・選考状況、助成金や企業協賛の獲得状況、懇親会の開催方式についての検討内容などが示された。今後は一般演題の応募締め切り後、プログラムの確定に向けた調整に伴い、助成金や企業協賛の獲得に向けてさらなる努力を行う予定である旨も報告された（「第 46 回大会 報告事項」参照）。
- 3) 岡部大会長より、第 47 回（2024 年）大会、Neuro2024 の準備報告が行われた。初回の執行委員会にて、FAONS CONGRESS の共催や大会テーマについて既に決定済みであることが述べられた。今後は、各種委員会のメンバーや、プレナリー講演を含む主要なプログラムの演者の選定と依頼を進める予定である旨も報告された（「第 47 回大会 報告事項」参照）。
- 4) Neuroscience Research Thomas J. McHugh 編集主幹より、2023 年 1 月 1 日に発足した編集体制が紹介され、2022 年に投稿された 667 報の査読審査実績および特集号発行実績と、2023 年以降の特集号発行予定、総説等の執筆依頼状況、プロモーション活動等について説明があった。また、2023 年 NSR 論文賞の選考を開始し、第 46 回神経科学大会の会場で授賞式と受賞講演を行う予定であることが報告された（「NSR 委員会 報告事項」参照）。
- 5) 奨励賞選考委員会の藤山文乃選考委員長より、選考結果の報告があった。16 名の候補者（うち女性 4 名）の中から、選考方針について慎重に確認のうえ、受賞候補者 5 名（うち女性 2 名）が選出されたことが述べられた。また、審査において議論された点や今後の課題、次期選考委員長（藤勝野雅央（名古屋大学））の予定等についても説明があった（「奨励賞選考委員会 報告事項」参照）。
- 6) 磯村宜和庶務理事より、ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞に関する報告があった。現時点で 7 名（国内：0 名、国外：7 名）からの応募があるものの、締め切りを延長中である旨や、今後のスケジュールなどが述べられた（「アルトマン賞選考委員会 報告事項」参照）。
- 7) 法人化実行委員会の磯村宜和委員長より、一般社団法人への移行に関する準備状況について報告があった（「法人化実行委員会 報告事項」参照）。
- 8) 柚崎 通介会長より、2023 年度 理事選挙・評議員選挙の結果について報告があった。

【審議事項】

- 1) 法人化実行委員会の磯村宜和委員長より、一般社団法人の定款・細則・内規の最終案について説明があり、審議の結果、部分的な修正を行う前提で条件付き承認となった。
- 2) 山中宏二会計理事より、学会本体会計 2022 年決算案と NSR 会計 2022 年暫定決算案が示され、承認

された（資料 B, C）。また、学会本体会計 2023 年予算案ならびに NSR 会計 2023 年予算案についても承認された（資料 D）。

- 3) 柚崎会長より、第 48 回（2025 年）大会の大会長候補について提案があった。大会長として藤山文乃氏が選出され、会場候補については再度検討を行うこととなった。続いて、第 49 回（2026 年）大会の会場候補についての検討が行われ、審議の結果、神戸国際会議場・神戸国際展示場での開催が決定した。
- 4) 礒村宜和庶務理事より、事務局の就業規則及び関連規程の制改定、および本学会の各種文書における一般法人化への対応について提案があり、いずれも承認された。

以上

第 46 回神経科学大会 報告事項（兼議事録）

- Neuroscience2023: 2023 年 8 月 1 日（火）～8 月 4 日（金）、市民公開講座: 8 月 5 日（土）
- 仙台国際センター(www.aobayama.jp)（会議棟、展示棟）、星陵会館

大会長：小林和人（福島医大）

実行委員長：大隅典子（東北大）

実行副委員長：筒井健一郎（東北大）

プログラム委員長：磯村宜和（東京医科歯科大）

プログラム副委員長：下郡智美（理研）

大会 Web サイト：<https://neuroscience2023.jnss.org/index.html>

前回の理事会以降の活動報告

- 大会・学会企画シンポジウム：大会企画 18 件、学会企画 4 件のテーマ、オーガナイザー、講演者を確定した(2022 年 11 月末)。
- 公募シンポジウム：応募 38 件。プログラムコア委員により採点、分野のバランスも考慮し 37 件を採択した(2022 年 11 月 うち 3 件は女性・海外講演者を含める条件付)。
- 大会日程および会場を決定した(2022 年 12 月)。
- 一般演題登録：締切 2 月 8 日まで募集中。プログラム委員の査読により一般口演、若手育成塾、ポスターに割り振り、結果を 3 月頃に通知予定。
- 海外 Travel Award(公募): 1 月 11 日締め切り。選考中。
- 国内 Travel Award: 演題査読により 3 万円支給予定。
- 助成金：加藤記念難病研究助成基金より助成採択。その他は申請中。
- 企業協賛：パッケージスポンサー 2 社、ランチョン 1 社、企業展示 14 小間など、予算達成率は約 30%。3～4 月にかけて協賛締切となるため、企業の申込みが本格化するのこれからと予想している。
- 懇親会：コロナの状況によるが、コンパクトな内容とし、商店街のアーケードなどオープンエアでの開催を検討中。
- 市民講座：講演者に加え、スケジュールを決定。科研費研究成果公開促進費(B)へ申請中。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- 演題登録をさらに募る。late breaking abstract を 4 月に募集予定。
- 助成金、企業スポンサー獲得に向けた活動を一層進める。

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

- 市民講座「脳科学の達人」は、松元委員長の下、アウトリーチ委員会において検討中。
- 若手育成塾は田中謙二先生（慶応大）の主導で若手主体の研鑽の場となるように企画を進める。
- 神経科学奨励賞・徳実博士賞やブレインビーの授賞式を盛り上げる工夫をする。

NEURO2024 準備状況報告(兼議事録)

別添資料: なし

※事前にお目通しください

1. 日程: 2024 年 7 月 24 日 (水) ~ 7 月 27 日 (土)
2. 会場: 福岡コンベンションセンター(福岡国際会議場、マリンメッセ福岡 B 館)

3. 大会役員 (敬称略):

大会長: 岡部 繁男 (東京大学)

実行委員長: 大塚 稔久 (山梨大学)

プログラム委員長: 合田裕紀子 (OIST)

下記の 2 学会との合同開催

- 第 67 回日本神経化学会 大会長 小泉 修一(山梨大学)
- 第 46 回日本生物学的精神医学会年会 大会長 山末 英典(浜松医科大学)

他学会役員

大会長: 小泉修一 (山梨大学) 神経化学

山末 英典 (浜松医科大学)

実行委員長: 津田 誠 (九州大学) 神経化学

和久田 智靖 (浜松医科大学)

プログラム委員長: 田中 謙二 (慶応大学) 神経化学

山末 英典・兼 (浜松医科大学)

4. 準備状況

- 運営業者は選定コンペにより AE 企画に決定。
- 大会役員による執行委員会(運営業者も含め)を開催し、以下の項目を検討した。
- FAONS との共催: 2024 年は日本がホスト国となっており、NEURO と併催して FAONS CONGRESS とし
て開催する。
- 大会テーマ: Deciphering the mind: Transcending borders for the future
※日本語テーマは設定せず英語のみ
- 実行委員、プログラムコア委員、演題分類項目を検討中。演題分類項目が決定しだいプログラム委員を
選出する予定。
- プレナリー講演者(候補): 3 学会から 1 名ずつ候補を選出し依頼中。さらに FAONS 枠で 1 名検討す
る予定。
Gina Turrigiano (Brandeis University) 内諾済
Baljit Khakh (UCLA) 内諾済
Simon Baron-Cohen (University of Cambridge) オンラインの可能性あり
- 特別講演、教育講演の演者はこれから検討する
- 神経化学会が実施している若手道場のような企画も実施する予定

NSR 委員会 報告事項（兼議事録）

NSR Committee Report of Activities (Minutes of the Board of Directors Meeting)

別添資料: なし

Appendix: None

委員長 Thomas J. McHugh

委員 Ayako M. Watabe (vice chair), Akiko Hayashi-Takagi, Takuji Iwasato, Keiichi Kitajo, Rieko Muramatsu, Yukari Ohki, Toshihisa Ohtsuka, Shinsuke Suzuki, Hideyuki Takeuchi, Koji Yamanaka

前回の理事会以降の活動報告

Activities after the last Board of Directors' Meeting

- The new NSR Committee has launched on January 1st, 2023 (term: 2023.1.1 to 2025.12.31).
- The Committee, together with the former committee members as advisors, has initiated the selection of winning papers for NSR Best Paper Award and NSR Excellent Paper Award 2023.

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

Activities scheduled in coming six months

- The Committee will continue the selection of NSR Paper Award papers, and will announce the winning papers at the JNS website, in the Neuroscience News, as well as by emails to the JNS members. The Award ceremony and the award lecture by the first author of the Best Paper Award paper will be held at the venue of the 46th Annual Meeting.
- The introduction of "Article-based publishing (ABP)" will be discussed again at Elsevier's request.

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

- Collaborative Workshop with IBRO, titled "JNS/IBRO Workshop on Publishing in Society Journals", will be intended to educating especially younger scientists on the publication process rather than introducing journals.
- The percentages of open access papers published in NSR during last four years are 10.1% in 2019, 10.7% in 2020, 12.8% in 2021, and 26.2% in 2022.

奨励賞選考委員会 報告書（兼議事録）

2022 年 11 月 22 日

委員長 藤山文乃（北海道大学、パネル2）

委員 澤本和延（名古屋市立大学、パネル1）、高橋英彦（東京医科歯科大学、パネル3）、勝野雅央（名古屋大学、パネル3）、上川内あづさ（名古屋大学、パネル1）、北城圭一（生理学研究所、パネル2）、南本敬史（放射線医学総合研究所、パネル2）、渡部文子（慈恵医大、パネル1）
（敬称略、五十音順）

前回の理事会以降の活動報告

1. 奨励賞

2022 年 11 月 17 日に奨励賞選考委員会を行い、応募者数 16 名（うち女性 4 名）の中から下記 5 名（うち女性 2 名）が選ばれた。

パネル1（分子・細胞神経科学）

田淵 理史 ケース・ウェスタン・リザーブ大学 医学系研究科 神経科学部

パネル2（システム神経科学）

天羽 龍之介 ハーバード大学 分子細胞生物学部

太田 茜 甲南大学理工学部 / 統合ニューロバイオロジー研究所

乗本 裕明 北海道大学大学院 医学研究院 細胞薬理学教室

パネル 4（その他の神経科学）

長谷川 恵美 筑波大学 医学医療系 / 国際統合睡眠医科学研究機構

※二次審査である NSR への総説投稿締切日 2023 年 3 月 31 日

**投稿論文が奨励賞選考委員会により確認され、受賞が確定するまでは、
上記情報は部外秘でお願いします（4 月上旬まで）。**

【議論された点】

- ・ COVID-19 による研究中断期間の申請について、どの応募者も少なからず影響を受けているのではなど様々な意見が出た。現在の規定では 1 年を限度として認めるとしており、議論の結果、当面この規定のまま運用することとした。
 - ・ 今年度で 5 年連続してパネル 3 からは受賞者が出ていないことになる。パネルに代表される分野の偏りを選考の過程で修正することが難しい。今後は各分野（ドメイン）ごとに受賞者を選ぶ可能性も含め、検討課題である。
- ・ 奨励賞の授賞式を盛り上げるアイデアについて検討し、下記の案を仙台大会のプログラム委員長に提案し、ご検討いただくことにした。

- a. 授賞式に過去の受賞者を招待し、ロールモデルとして話しをしてもらう。
- b. 会場のモニターで先輩受賞者の現在の活躍とメッセージを紹介する。
- c. 受賞者にポスターを作成してもらい、大会会場で1か所に展示し、参加者と受賞者が交流できるようにする。

その他、募集要項と選考方針を再確認し、関連資料をふまえて議論した。得点順位だけではなく、研究実績、将来性、経歴、ダイバーシティ、パネル比率、脳科学および学会への貢献など、多くの観点から議論をおこない、ボーダーライン上の応募者に関しても十分に検討したうえで、最終的に5名を候補者として選出した。

【今後の課題】

- ・ パネルに代表される分野の偏りを選考の過程で修正することが現時点では難しい。今後は各分野ごとに受賞者を選ぶ可能性も含め、検討課題である。
- ・ 受賞者から NSR への総説投稿に関して、共著者がいても良いかという問い合わせがあった。以前の記録では、複数著者で責任著者という立場の投稿を受賞論文として認めたことがある。今回は第一著者もしくは責任著者であればと回答した。今後投稿方法についても応募要項に記載すべきか検討課題である。

2. 2024 年度(次期)選考委員長

勝野雅央(名古屋大学、パネル3)

3. ミズノスポーツ研究助成

財団から推薦依頼があったわけではないが、学会員から学会推薦を希望との連絡があり、委員会にてメール審議を行った結果、下記の会員を推薦との結論となった。

- ・ 瀬戸川 将 (大阪公立大学)

4. 時実記念神経科学優秀博士研究賞(選考準備状況)

11 月中旬案内開始、申請締切 2023 年 2 月 17 日(金)必着

【今年度の変更点】

- ・ 応募者に対し、大会参加に伴う旅費の一部を補助(1万円を限度)
- ・ 募集活動の強化(昨年まで約30大学あてにメール案内していたものを約100大学に増加)
- ・ 2次選考セッションを学会中にオンサイトで行うかオンラインにするかは COVID-19 の感染状況による

今後約6ヶ月の活動目標・計画

- ・ 2024 年度選考委員長である勝野雅央先生への引継ぎ。

- ・ 2023 年 2 月～3 月頃 時実利彦記念神経科学優秀博士研究賞 一次審査予定。
- ・ 2023 年度 奨励賞受賞内定者から NSR に総説を投稿して貰う(2023 年 3 月末締切)。
- ・ NSR への投稿論文を査読し確認ができ次第、受賞者を決定する(2023 年 4 月上旬)。
- ・ 受賞者への連絡・公表・表彰式への案内を行う(事務局担当)。

ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞選考委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:なし

※事前にお目通しください

委員長 後藤 由希子

委員 Guillermina Lopez Bendito、Anna Victoria Molofsky、中島 欽一、竹内 春樹、石田 綾

前回の理事会以降の活動報告

・第7回受賞候補者の募集

募集要項・申請書の整備と、登録サイトの設定、募集開始後にはメール配信などの広報活動を行った。

募集締切:2023年4月31日(月) 2月15日(水)まで延長中

・現在までの応募者数:7名(国内:0名、国外:7名) ※2023年1月26日現在

アルゼンチン1名、ハンガリー1名、イラン1名、ポルトガル1名、英国1名、米国2名

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

・今後のスケジュール

2月15日(水)	応募締切
2月16日(木) - 3月2日(木)	選考委員による審査
3月3日(金) - 6日(月)	審査結果集計
3月7日(火) - 8日(水)	採否決定
3月13日(月)	採否通知

・第46回大会(2023年仙台)はハイブリッド開催で、受賞者本人が現地参加可能な場合、会期中に授賞式、受賞講演、夕食会を開催予定(2023年8月3日予定)。本人が渡航できない場合には、オンラインで授賞式と受賞講演を行う。

特記事項

(理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

法人化実行委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:なし

委員長 磯村 宜和

委員 石川 欽也、平井 宏和、吉本 潤一郎

前回の理事会以降の活動報告

- ・第 102 回理事会・拡大執行委員会(2022 年 8 月 3 日)において、
 - 1) 日本神経科学学会会則 第七条(評議員の選任)および付則12の改定
 - 2) 日本神経科学学会会則 第七章(解散および清算)の第二十六条から第三十一条の追加
 - 3) 一般社団法人化を見据えた移行案全般(定款案および細則案等)の検討について提議し承認された。
- ・2022 年度総会(2022 年 8 月 19～30 日)において、「一般社団法人化を見据えた会則の改定」の議案が可決された。 並行して学術ドメイン調査を実施し、学術ドメイン構成の基礎データを収集した。
- ・総会での承認を受けて、理事選挙(新任理事 10 名、留任理事 10 名)を実施した(投票 2022 年 11 月 8～22 日)。現在、評議員選挙(80 名)を実施中である(投票 2023 年 1 月 23 日～2 月 3 日)。
- ・魚本司法書士、亀岡公認会計士、青野公証人の指導で一般社団法人の定款・細則案を作成した(審議事項)。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- ・一般社団法人の定款・細則案の確定後、理事 3 名と監事 1 名をもって法人を設立する(4 月 1 日)。

特記事項 (理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

特記すべきことなし

法人化実行委員会 審議事項（兼議事録）

別添資料：（別冊1）

委員長 磯村 宜和

委員 石川 欽也、平井 宏和、吉本 潤一郎

審議事項名 ■会則の制改定 ■規程の制改定 ■内規等の制改定 □その他（ ）
「一般社団法人の定款・細則・内規の最終案について」

背景・経緯

昨夏の理事会および総会において一般社団法人への移行が正式に承認された。その後、一般社団法人化を見据えて、理事選挙により新理事（新任理事 10 名・留任理事 10 名）を選出し、評議員選挙（理事 20 名に加えて 80 名）も実施している。

総会においては会則改定の審議資料として一般社団法人の定款及び細則の案を俎上に載せ、議決により定款・細則案についても合意が形成されたものとした。今回、司法書士、公認会計士、公証人の指導により法的に定款・細則案の完成度を高めた最終案をご審議いただきたい。
（ただし、表記や体裁に修正が加わる可能性があります。）

審議を要する項目

一般社団法人 日本神経科学学会 定款（案）
一般社団法人 日本神経科学学会 会員種類及び会費細則（案）
一般社団法人 日本神経科学学会 評議員及び役員選出等細則（案）
同 内規（案）
一般社団法人 日本神経科学学会 機関誌編集細則（案）
一般社団法人 日本神経科学学会 年次大会細則（案）

具体的内容（目的・方法・効果・課題など）

一般社団法人 日本神経科学学会の定款及び附属する細則及び内規の案を定めることにより、2023 年 4 月の設立を実現する。

理事会での質疑応答 （理事会での質疑応答を簡潔にご記載ください。発言者名は不要です。）

・理事会と大会長の関係性を定款か細則に明記すべきではないか？
→ 定款はそのままとし、年次大会細則の第 3 条第 4 項を次のように修正する
「適宜報告し承認を受けなければならない。」

結論 （理事会での結論（承認、条件付承認、不承認、再検討、保留）をご記載ください）

条件付き承認： 年次大会細則の第 3 条第 4 項を修正のうえ承認された

指名委員会報告事項（兼議事録）

委員長 柚崎 通介

委員 岡部 繁男、加藤 忠史、銅谷 賢治、藤山 文乃、宮川 剛

前回の理事会以降の活動報告

- 東レ科学技術研究助成の学会推薦枠で一件推薦を行った。
- ミズノスポーツ振興財団へ学会推薦枠で一件推薦を行った。
- 山田科学振興財団へ学会推薦を行った（採択）。
- 日本学術振興会賞へ一件学会推薦を行った（採択）。
- 日本学術会議会員・連携会員候補 6 名を学会枠さらに 6 名を個人枠で推薦した。
- ダイバーシティ対応委員会とともに、日本神経科学学会の評議員候補への立候補の打診を行った。
- ダイバーシティ対応委員会とともに、日本神経科学学会の理事候補への立候補の打診を行った。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- 引き継ぎ事項
 - ・ 研究助成など学会推薦枠で応募した際には学会に成否を必ず報告してもらい、採択者は学会 HP で取り上げることで、会員への応募のモチベーションを高めることが必要。

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

将来計画委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料1～5

委員長 宮川剛

委員 五十嵐 啓(カルフォルニア大アーバイン校)、生田敏一(ミシシッピ大)、榎木亮介(生理学研)、王丹(京都大)、奥山輝大(東京大)、勝野 雅央(名古屋大)、神谷之康(京都大学)、竹内遼介(名古屋大)、坂内博子(早稲田大)、樋口真人(放医研)、藤山文乃(北海道大)、村山正宣(理研 CBS)、和氣弘明(名古屋大)

前回の理事会以降の活動報告

1. 脳科連のポスト革新脳・国際脳・疾患メカ・横断萌芽の原案についての意見の提出

脳科連の拡大将来構想委員会が2022年9月29日(木)に開催され、ポスト革新脳・国際脳・疾患メカ・横断萌芽及び日本学術会議の「未来の学術振興構想」についての案が検討されており、脳科連の参加各学会の将来構想委員会に対して、その案についてのコメントを求めるアンケートが2回に分けて実施されること(1回目:主に、ポスト革新脳・国際脳・疾患メカ・横断萌芽について、締め切り2022年10月11日;2回目:日本学術会議の未来の学術振興構想について:締め切り:2022年11月18日)がアナウンスされた(別添1)。

1回目のアンケートに対応するため、当委員会でZoomとSlackで議論を行い原案を作成した(Zoomミーティング:10月3日)。その原案を理事会のSlackで紹介し、意見を聴取し改訂した上で提出した(別添2-1, 2-2)。

また、2回目のアンケートに対応するため、当委員会でZoomとSlackで議論を行った(Zoomミーティング:11月2日)。脳科連・将来構想委員会の原案は、「人間が人間の脳を理解するための神経生物学の創生に向けて」というタイトルのもと、脳を模したネットワーク型研究所(既存の国内の脳研究拠点を拡大し、ネットワークで結ぶという構想;別添3:脳科連評議員会資料57, 58ページ)をつくるというものであったが、これを検討した結果、JSN 将来計画委員会からは、別途、脳科連・将来構想委員会のコンセプト・目標にマッチする形で、脳の研究者の人材育成とポスト創出も促進する意味も含め、新規の脳関連の研究所を設立することを提案することとなり、アンケートではその旨の回答を提出した(別添4)。

2. 日本学術会議「未来の学術振興構想」の提案

欧米のBrain Observatoryのコンセプト(Koch et al., Neuron 2022)を活用しつつ、以下のポイントを含める形で、案を検討し、日本学術会議の未来の学術振興構想の「施設」のカテゴリーに提案を行った(別添5-1, 5-2)。

提案のポイント:

- ・当委員会と理事会での議論をもとに作成したポンチ絵(別添2-2)の内容に沿ったものとする。
- ・欧米のBrain Observatoryのコンセプトを取り入れつつ、これまで5回にわたって開催されてきたランチョン大討論会「脳科学は次の10～20年に何をどう目指すべきか?」での議論の内容も踏まえた案とする。
- ・脳科連・将来構想委員会の「人間が人間の脳を理解するための神経生物学の創生に向けて」の構想・ビジョンに基づいたものとする(ネットワーク型研究所のハブとなるような研究所とする)。

3. NSRの契約更改について

McHugh 機関誌 WG・委員長/NSR 新編集長を中心に、柚崎会長、上口 NSR 前編集長、宮川・将来計画委員長などで、エルゼビアとの時期の契約について交渉を行っている。

- ・エルゼビアの強い意向もあり、NSRはゴールドオープンアクセス誌となる見込み。
- ・エルゼビアから支払われるEditorial fee、Society royaltyは、現状の倍程度が提案されているが、これは掲載数の増加も前提としている。

・APC は、学会員\$2000～2300、非会員\$2600～\$3000 程度(徐々に値上げするモデル)。年間 20 報程度の招待論文の無料枠。

・ジャーナルタイトルのオーナーシップはエルゼビアが 100%保持し続ける前提の提案がエルゼビアからなされているが、現契約書に当学会の 50%のオーナーシップの取得に関する記載があり、また将来的な収益事業の柱とするためにも、当学会としては 50%のオーナーシップの取得を目指したい。

・KWF consulting に専門の弁護士の紹介も含め、50%のオーナーシップの取得を目指した交渉の仲介を依頼したい。2 月 1 日にミーティングを予定している。機関誌 WG の McHugh 委員長からの報告も参照。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

現・将来計画委員会としては、次期将来計画委員会でも継続して以下のような活動を行われることが期待される。

- ・第 46 回日本神経科学大会(2023 年)のランチョン大討論会を準備・実施する。
- ・機関誌の今後について、契約更改を中心に検討を継続する。
- ・大型研究費のあり方について検討を進める。
- ・キャリアパスや、研究費の問題など、神経科学スペシフィックではないが神経科学分野の研究者にも重要な各種の分野横断的イシューについての検討を進める。

特記事項 (理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

審議事項として審議・決定する事項は今回ありませんが、討論会、機関誌の今後、大型研究費のあり方などについて、この会、あるいは Slack 上で、随時、ご忌憚のない意見をいただけるとありがたいです。

将来計画委員会 日中韓ワーキンググループ報告事項（兼議事録）

委員長 尾藤 晴彦

委員 小林和人、磯村宜和、下郡智美、合田裕紀子、岡村康司、矢崎-杉山陽子、渡部文子、喜多村和郎

前回の理事会以降の活動報告

1. 中国神経科学学会より、2022 年末に、第 16 回中国神経科学学会年大会に併催という形で、第 2 回 China-Japan-Korea International Meeting が中国 珠海（香港国際空港より 1 時間以内の都市）の国際会議場にて 2023.7.26-7.30 の会期で開催されるという連絡があった。

2. これを受けて、第 2 回 China-Japan-Korea International Meeting の Scientific Program Committee 委員である小林和人、磯村宜和、下郡智美、合田裕紀子、岡村康司、矢崎-杉山陽子、渡部文子、喜多村和郎、尾藤晴彦（委員長）の 9 名を本委員会メンバーとして兼任していただき、第 1 回委員会を開催した。柚崎会長、宮川将来計画委員長にも陪席をお願いし、今後の対応を検討した。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

■

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

将来計画委員会 学会体制 WG 報告事項（兼議事録）

別添資料:なし

委員長 平井 宏和（群馬大学）

委員 吉本潤一郎（奈良先端科学技術大学院）、石川欽也（東京医科歯科大学）、大塚稔久（山梨大学）、岩崎広英（群馬大学）、上阪直史（東京医科歯科大学）

前回の理事会以降の活動報告

1) 日本神経科学学会の法人化について

学会体制 WG から平井が法人化実行委員会に参加し、法人化に向けてメール会議、オンラインでの会議を通して細部を検討した。

2) 年会費支払い方法の集約について

検討を行ったが未だ結論が出ていない。

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

年会費支払い方法の集約について、他の学会の状況を参考にさらに検討を進めたい。

特記事項（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

理事会において、柚崎会長から年会費の支払い方法に関して「時代の変化に合わせて変わっていくのが望ましい。」との重要なご意見をいただいた。来期への持ち越し事項となるが、これを踏まえて方針を検討したい。

大会委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:なし

※事前にお目通しください

委員長 山梨大学・大塚稔久

委員 池田 和隆、大隅 典子、岡部 繁男、笠井 清登、加藤 忠史、北澤 茂、高橋 良輔、竹村 文、銅谷 賢治、萩原 一平、尾藤 晴彦、平井 宏和、松元 健二、望月 秀紀、柚崎 通介、吉峰 俊樹、渡部 文子

前回の理事会以降の活動報告

（１）名誉会員とシニア会員の年次大会での扱い

背景

退職前と同じくらいアクティブに研究しているシニア会員も増えてきている（今後も増えることが考えられる）ので、演題発表時の参加登録費は払ってもらっても良いと考えられる。

【従来の取り決め】

	（比較用）正会員	シニア会員	名誉会員
年会費	10,000 円	5,000 円	0 円
参加登録費	有料	無料	無料
懇親会費	有料	有料	無料
演題筆頭発表	可	可	不可※

※ただし参加登録費を払えば発表可能

【新しい案】

	（比較用）正会員	シニア会員	名誉会員
年会費	10,000 円	5,000 円	0 円
参加登録費	有料	無料※	無料※
懇親会費	有料	有料	無料
演題筆頭発表	可	可※	可※

※ただし筆頭著者として演題発表をする場合には参加費を払う。

【大会委員会での議論】

- 「新しい案」のように変更することは問題ないと考えられる。
- シニア会員および名誉会員がご自身で発表する場合、自発的なご発表だけでなく、依頼されてのご講演の場合も、参加登録費をお支払いただくべきだろうか？

→ 教育講演や特別講演のように「review」的な見地からのご講演を依頼する場合は、ご招待が適切と考えられる。一方、一般演題発表に加えて、シンポジウム（公募、企画を問わず）でのご講演やオーガナイザーをお引き受けいただく場合については、参加登録費をお支払いいただいてもよいと考えられる。

大会委員会としては上記内容を結論とし、理事会審議にかける。

(2). 年次大会の演題登録時の画面表示について

背景

現在、演題登録時に、下記の質問項目への回答が必須となっている。

「私の研究はヒト、及び動物実験等のための適切な審査委員会によって承認されています。」

○はい

○該当しない（ヒト、及び動物を用いない）

また、これに「はい」と回答した場合は、

「ヒトを対象とした臨床実験」に対して審査委員会から発行された承認書類

のアップロードを必須としている（動物実験の場合は必須ではない）。

しかし、実際の査読では承認書類のチェックまでをプログラム委員に求めるのは難しく、担当のプログラム委員によっては、「書類提出の有無」程度のチェックになってしまっている。

どのような回答や書類の提出を求めるのが良いか、改めてご討議いただきたい。

【今回の大会委員会での議論】

- 2021年以前は、承認の有無を回答させるのみであり、各著者の所属機関によって承認されたという事実と、発表者本人による自己申告を重視していた。Neuro2022において、日本神経化学会のプログラム委員長のご意向により、初めて承認書類の提出を求めた。
- しかし、この記載方法では、承認書類とはどこまでを指すのか？臨床実験ではないヒト実験も書類が必要か？など不明な点が多く、問い合わせも多かった。
- 承認書類までは求めず、承認番号の入力のみで良いのではないか。もしくは、承認番号も求めず、一つ目の質問への回答のみ（従来通り）でも良いのではないか。
- 一つ目の質問の回答選択肢は三択にするのはどうか（例、「はい：ヒトを対象とした臨床実験に該当」「はい：ヒトを対象とした臨床実験には該当しない」「該当しない（ヒト、及び動物を用いない）」）。
- 臨床研究に精通された先生方のご意見からも、「臨床研究の場合には書類提出がどうしても必要」ということではないと考えられる（むしろ書類提出を求めるのはレアケースというご印象）。
- 承認番号の提出を求めた場合、番号が提出できなくて困る（所属機関の倫理審査委員会では承認番号が発行されない等）ケースはあるのだろうか？

- そもそも、研究の性質によっては、ヒトや動物を使用するけれど倫理委員会の承認を受けていないものもあるかもしれない。その場合はどうすれば良いのか？
- この部分が毎年変わるのは混乱の元になるため、大会委員会で決定したものを例年用いる、と決めてしまうのはどうか。一方、合同開催する学会によって、その年その年で必要な情報が変わる可能性もある。
- 他の学会ではどのような情報を提出させているのか、調査の必要がある。
 - このように様々なご意見が交わされたが、今すぐに決定することは困難と思われ、まずは他学会の調査を行うこととなった。

継続審議とする。

なお、仙台大会に限っては、大会執行部の先生方に議論いただいて演題登録画面の仕様を決定。その結果、現在稼働中の演題登録システムの該当画面は下記のようにになっている。

この演題の研究内容はヒト、及び動物実験等のための適切な審査委員会によって承認されています。 必須

厚生労働省等による医学研究に関する倫理指針及び所属機関が定めた倫理規定（動物実験等を含む）を遵守すると共に、あらかじめ所属機関等において倫理審査委員会等による審査・承認を得ていることが必要です。

本大会は、日本神経科学学会が定める「[ヒト脳機能の非侵襲的研究](#)」の倫理問題等に関する指針および動物実験に関する指針に従って運営されています。

☐ はい

☐ 該当しない（ヒト、及び動物を用いない）

「本大会は、日本神経科学学会が定める「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の倫理問題等に関する指針 改訂にあたっての声明および動物実験に関する指針に従って運営されています」

という部分には、下記ページへのリンクが貼られている。

- ・「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の倫理問題等に関する指針

https://www.jnss.org/human_kaitei_seimei

- ・動物実験に関する指針

https://www.jnss.org/animal_guidelines

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- ・シニア会員の定義について：法人化に合わせて、細則（案）を作成する。

国際連携委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:N/A

委員長 合田 裕紀子

委員 五十嵐 啓、岡村 康司、坂場 武史、杉山(矢崎) 陽子、田中 啓治、尾藤 晴彦、平瀬 肇、

前回の理事会以降の活動報告

【1】トラベルアワードについて

- ・ SfN2022 トラベルアワードへ 5 名を選出（Web「受賞者一覧」参照）、SfN 大会へ参加
- ・ 2022 年度 CNS 大会（バーチャル）へ 2020 年度に選出した若手研究者 3 名がオンライン参加
- ・ 2023 年度 CNS 大会（第 2 回 CJK 大会と合同開催）への公募を開始
 - SfN や FENS と同様に CV の提出を求めている

【2】2022 SfN Sponsored Social “Global Neuroscience Social”企画について

- ・ 多様性とグローバルなコネクションを作る機会をアピール
- ・ 福永泉先生、五十嵐啓先生、合田がオーガナイズ
 - ショートトーク演者：Takaki Komiyama（UC San Diego）、Josh Johansen（RIKEN CBS）、Megan Peters（UC Irvine）
- ・ 2023SfN へは Josh Johansen 先生がオーガナイザーとして企画を応募中

【3】2023 年仙台大会 日本-中国合同シンポジウム企画について

- ・ 岡村康司先生が、小林大会長、磯村プログラム委員長、CJK の尾藤先生と調整しつつ、中国側とコーディネートし企画内容を検討中

【4】期限を迎える協定書について

- ・ Lundbeck 財団と Brain Prize を通した交流についての協定を更新（2024-2026）
 - 内容の変化はなし
- ・ FENS との協定の更新は交渉の最終段階
 - Cajal プログラムが FENS の管轄から外れたことを受けて、今後は FENS Summer School への若手研究者参加を支援する

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- ・ 引き続き各種トラベルアワードの選考も含めて国際連携の促進を図る

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

情報基盤整備委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:なし

※事前にお目通しください

委員長 吉本 潤一郎

委員 奥村 嘉宏、中野 高志、平井 宏和、丸山 めぐみ、山崎 匡

前回の理事会以降の活動報告

- ・理事選挙、評議員選挙のための選挙システムの実装
 - ・理事選挙:2022 年 11 月 8 日(火)～11 月 22 日(火)に実施
 - ・評議員選挙 2022 年 1 月 23 日(月)より実施中(2 月 3 日(火)まで)
- ・Slack の NPO 支援プログラム(割引プラン)の申請
 - ・法人格を有さない任意団体は対象外だったため、不承認。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- ・次期体制への引き継ぎ資料作成
- ・SE 松本様との業務委託契約(更新期限:2023/4/1、同条件で更新予定)
- ・法人の登記完了後、NPO 支援プログラムの割引に申請
- ・サーバ保守に関する長期プランの策定(次期体制に依頼)

特記事項 (理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

理事会では特に質問は出なかった。

残りの期間では、次期体制へと定例業務および課題について円滑に引き継げるよう対応を進めていく。

ニュース編集委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料: 1～4

※事前にお目通しください

委員長 古屋敷 智之

委員 荒田晶子、竹本さやか、松尾直毅、水関健司、村松里衣子、山中章弘

前回の理事会以降の活動報告

- 2022 年 3 号(8 月号)・4 号(11 月号)の原稿を予定通り収集・校了し、それぞれ 8 月 10 日と 11 月 10 日に発行した(別添1、2)。
- 2023 年 1 号(2 月号)の原稿を予定通り収集・校了し、2 月 10 日に発行する予定である(別添3)。
- 2023 年 2 号(4 月号)を企画し、執筆者に原稿を依頼し、4 月 10 日に発行予定である(別添4)。

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- 最大ページ数に配慮して、各委員が担当号の原稿を収集し、校正を全委員で分担して行う。
- PDF 版・HTML 版の同時発行に向けて準備を進める。(但しホームページ委員会の研究室マップ完了後となる。)
- HTML 版の発行後には、PDF 版の継続が必要かを PDF 版へのアクセス数や会員へのアンケート調査等により検討する。

特記事項

(理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

•

ホームページ委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:掲載記事一覧
※事前にお目通しください

委員長 掛川 渉

委員 荒田 晶子、川口 真也、佐々木 拓哉、篠田 陽、中山 寿子、村山 正宜

前回の理事会以降の活動報告

- ・研究室便り(研究室リスト・マップ)用の情報収集と公開（2022 年 12 月 28 日公開）
- ・ホームページ委員会開催（2022 年 12 月 6 日開催）
- ・研究室便り作成打合せ（2回; キッツエム松本様＋事務局）
- ・神経科学トピックス記事査読作業（14件）
- ・神経科学トピックス記事 HP 公開（12件; 別添資料参照）
- ・委員会メンバーによる SNS 書き込み(神経科学トピックス図および関連 URL 配信)

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

- ・神経科学研究室便り(研究室リスト・マップ)公開データの更新・メンテナンス作業(特に英語版の整備)
- ・神経科学トピックス記事査読作業
- ・神経科学トピックス記事 HP 公開
- ・過去の追悼記事の整理および追悼コーナーへの集約
- ・次期委員会メンバーへの引継ぎ

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

アウトリーチ委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:ニューロナビゲータガイドライン

※事前にお目通しください

委員長 松元 健二

委員 青木 隆太、小清水 久嗣、土谷 尚嗣、豊田 淳、坂内 博子、宮川 剛

前回の理事会以降の活動報告

- 市民公開講座
 - 「脳科学の達人 2022」の質問回答動画撮影、動画アーカイブ化
 - 「脳科学の達人 2023」の企画・立案
 - 市民公開講座「脳科学の達人 2023」開催のための研究成果公開促進費申請
 - 不正発覚のあった発表者の動画公開停止
- ニューロナビゲータ決定・活動開始
 - 9名選定 (@asaoka_yui, @Kurumi_Ao, @VBLab_Rue, @yuhei_takado, @AtsukiHiramoto, @Bio_stations, @yamagatm3, @dhtanaka, @madyyy27)、記念品発注・送付
 - ガイドライン作成・送付
 - 「ニューロナビゲータ」商標登録

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- 市民公開講座
 - 「脳科学の達人 2023」の準備・開催
- ニューロナビゲータ 2023 の募集
 - HP 掲載、Newsletter 配信、SNS 投稿
 - 記念品選定 & デザイン

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）



産学連携推進委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:

※事前にお目通しください

委員長 松元 健二

委員 天野 薫、茨木 拓也、岡田 知久、金井 良太、萩原 一平、本田 学、南 雅文、前田直哉

前回の理事会以降の活動報告

- 産学連携シンポジウム
 - 「メタバースと脳科学」(2022)の動画アーカイブ化準備中
 - 2023 産学連携シンポジウムの企画・立案
 - テーマ「信頼される脳科学技術による社会への貢献を考える」
 - シンポジスト内諾済(坂口秀哉(理研 BDR)「脳オルガノイド研究の現状と未来」、雨森賢一(京大)「Neuromodulation の基礎研究と未来」、紺野大地(東大)「脳のデジタルツイン研究の現状と未来」、西堤優(CiNet)「新たな脳科学技術が信頼・受容される条件」(いずれも仮題)

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- 産学連携シンポジウム
 - 「メタバースと脳科学」(2022)の動画アーカイブ化完了
 - 2023 産学連携シンポジウムの準備と宣伝

特記事項

(理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

■

アドボカシー委員会 報告事項（兼議事録）

委員長 松田 哲也

委員 伊佐 正、岡部 繁男、尾崎 紀夫、齊藤 延人、高橋 良輔、望月 秀樹、山脇 成人

前回の理事会以降の活動報告

- ・関連国会議員への情報提供ならびに意見交換を実施
- ・関連省庁、ファンディングエージェンシー（AMED、JST）等と意見交換を実施

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- ・次期 AMED 事業に関する関係各機関との意見交換ならびに調整等を実施予定

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

- ・学会として、関係各所への陳情時に取り上げてほしい内容がありましたら、情報を提供ください。

利益相反委員会 報告事項（兼議事録）

委員長 松田 哲也

委員 定藤 規弘、田中 沙織、戸田 達史、三村 將

前回の理事会以降の活動報告

- ・審議事項は特になし。

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- ・審議事項が発生した時に対応を行う。

特記事項（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

- ・次期体制の際、役員の利益相反(COI)確認を理事を対象とするのか、評議員まで対象にするのかの確認が必要。

2023 年 1 月 18 日

脳科学辞典報告

進捗状況

- ・細胞・シナプス・分子分野で特に特定の分子に関する著者をピックアップ。執筆者が割と限られ、選定しやすい。柚崎編集委員にも見ていただき、特にご反対もなかったなので依頼予定。
- ・認知・システム・回路分野で田中先生が一部の著者を挙げてくださったので、それに関しても依頼する。
- ・書籍化に関しては東京大学出版からは特に連絡がない。
- ・新しく掲載した用語を神経科学ニュースで掲載している。

その他

- ・免疫学会で用語の問題に対応していらっしゃる鏑田武志先生から脳科学辞典の編集に関してお問合せがあったので、返事をした。

林 康紀

臨床・関連学会連携委員会 報告事項（兼議事録）

2023 年 2 月 8 日

委員長 尾崎紀夫

委員 望月 秀樹、勝野雅央、橋本亮太、豊泉太郎、銅谷賢治、和氣 弘明、星野 幹雄、永井拓

前回の理事会以降の活動報告

1) 2023 年日本神経科学大会において神経内科学会、精神神経学会、神経化学学会との連携シンポジウムとして、以下の企画を提案した。

・シンポジウムテーマ：若手研究者が考える基礎臨床連携研究とは？

・司会

橋本亮太（NCNP）：臨床・関連学会連携委員会委員

橋本均（阪大）：

・演者

1. 基礎臨床連携研究とはどのように行うのか？ 中澤敬信（東京農大）
2. 精神疾患の病態の発見：モデル系に落とし込める脳病態とは何か？ 岡田直大（東大）
3. 精神疾患の病態の解明：臨床脳表現型に対する脳病態解明研究とは何か？ 笠井淳司（阪大）
4. 精神疾患の病態の発見：ゲノム研究から始まる病態解明とは何か？ 西岡将基（順天堂大）
5. 精神疾患の病態の解明：iPS 細胞を用いた脳病態解明研究とは何か？ 有岡祐子（名古屋大）

趣旨

精神疾患の病態解析は、患者を対象としたゲノム解析、脳画像解析、脳機能イメージング、神経生理解析、および死後脳研究等によってすすめられてきた。近年では iPS 細胞技術が導入され、患者の神経細胞の表現型を直接的に解析することが可能になってきた。また、患者サンプルを用いた研究のみならず、動物モデルを用いたシナプス・神経回路・行動レベルの研究が精力的に行われている。しかし、精神疾患の明確な分子病態は同定されておらず、不明な点が多く残されている。精神疾患の病態を解明するためには、①臨床データや病態に基づいた患者の分類②動物とヒトとのトランスレータブル指標の開発③臨床データや病態に基づいたモデル動物の作出と解析④モデル動物や iPS 細胞を用いて明らかにした知見と臨床データや死後脳データとの整合性の検証⑤病態と関連する神経回路や分子病因の特定、が重要である。それらの研究を推進し、診断や治療に関するバイオマーカーの開発、個別化治療の開発、および創薬ターゲットの同定を可能にするためには、基礎と臨床研究の緊密な連携が必要である。本シンポジウムでは、臨床サンプルを用いたゲノム研究や脳画像研究、および患者由来 iPS 細胞やモデル動物を用いた病態解明研究を精力的に推進している新進気鋭の若手研究者を迎えて、精神疾患の本質的な理解や治療を目指した基礎臨床連携研究についてご紹介して頂く。

2) 日本脳科学関連学会連合を介した連携

・産学連携諮問委員会を設置して健康医療戦略に関する意見表出などについて討議した。

3) 日本学術会議を介した連携

- ・8/27/2022、神経倫理(脳とこころ分科会・神経科学分科会の合同)に関するシンポジウムを開催した。

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- ・本年度も引き続き、臨床・関連学会等における連携企画を検討予定。

特記事項

(理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

- ・専門医制度の動向から臨床系若手の神経科学領域への参入増加は厳しい状況が続いている。

ダイバーシティ対応委員会 報告事項（兼議事録）

2023 年 2 月 1 日

別添資料：男女共同参画学

協会への活動報告書

委員長 渡部 文子（慈恵医大）

委員 五十嵐 啓（カリフォルニア大学アーバイン校）、大木 紫（杏林大学医学部）、大隅 典子（東北大学大学院医学系研究科）、上川内 あづさ（名古屋大学大学院理学研究科）、杉山 清佳（新潟大学医歯学系）、竹内 秀明（岡山大学自然科学研究科）、富永 真琴（自然科学研究機構岡崎統合バイオサイエンスセンター）、西 真弓（奈良県立医科大学医学部）、道田 奈々江（マツダ株式会社技術研究所）、吉村 由美子（自然科学研究機構生理学研究所）、渡辺 裕美（田辺三菱製薬（株）育薬本部）

前回の理事会以降の活動報告

- ・ 男女共同参画学協会連絡会第 20 期第 3 回（2022 年 8 月 22 日 zoom 開催）、第 21 期第 1 回定時総会＋運営委員会（2022 年 12 月 14 日 zoom 開催）に参加した。
- ・ 第 46 回大会のランチョンシンポジウムについては、ダイバーシティ委員の五十嵐啓先生と王丹先生に企画・座長を依頼した。若手女性研究者のデビューの場として、さらにキャリアパスなどの議論もできるような企画とする方向性で進んでいる。
- ・ 法人化に伴い、ダイバーシティに関する数値目標等を定めるかについて、学会長からの声掛けのもと委員会内で議論を行った。数値目標などなくても自然に達成されるのが理想であるものの、202030 問題や、日本のジェンダーギャップ指数の低さから見ても、このままでは実現されない壁があることも否定しがたい。委員会として、数値目標を今後は定めたほうがよいとの結論となり、拡大執行委員会において審議され、細則に明示することとした。

今後約 6 ヶ月の活動目標・計画

- ・ 男女共同参画学協会連絡会に参加予定（年 3 回；12 月、3 月、8 月）。

倫理委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料:なし

※事前にお目通しください

委員長 花川 隆

委員 佐倉統、定藤規弘、島田斉、田中悟志、松田哲也

前回の理事会以降の活動報告

- ・医学系研究統合指針に対応した「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」の改訂版を公開(https://jnss.org/human_kaitei_seimei?u=244a16c0d29680d8c7e3de17b8678bab)
- ・英文に関しては医学系研究統合指針の英語版がまだ公表されていなかったため、語句を合わせる必要性から医学系研究統合指針の英語版の公表を待つ方針。
- ・「ヒト脳機能の非侵襲研究の倫理問題などに関する指針」を、侵襲的手法を用いたヒト神経科学研究を含めた「ヒト脳機能の神経科学研究に関する倫理問題等に関する指針」として発展改訂するために神戸大学脳神経内科・松本理器教授に委員会への参画を打診し、ご快諾いただいた。現在、松本委員側で協力者の人選中。

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- ・協力者の人選が済み次第、侵襲的手法を用いたヒト神経科学研究の章(具体的にはてんかんモニター用の留置電極、パーキンソン病の深部電気刺激用の電極、埋め込み電極を用いた BMI 研究等)の執筆を開始する。

特記事項

(理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください)

- ・他に新倫理指針でカバーすべきヒト神経科学研究の内容やその取りまとめに適切な人材に心当たりがあればご推奨いただきたい。

動物実験委員会 報告事項（兼議事録）

別添資料：（別添1）調査概要説明資料

※事前にお目通しください

委員長 竹村 文

委員 宇賀 貴紀、小林 和人、繁富 英治、中村 克樹、長谷川 功

前回の理事会以降の活動報告

- ・環境省の行っているアンケート調査について
 - － 委員会内で情報共有
 - － 動連協と情報共有
- ・第165回日本獣医学会学術集会においてガイドライン策定の目的等に関する講演（2022年9月8日）
- ・日本実験動物協会の発行する LABIO21 への原稿依頼 ガイドラインの目的等に関する内容（2023年5月号の予定）

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- ・来年度行われる本アンケートについて
 - － 関係各所と情報共有しながら学会内に周知
- ・「霊長類を対象とする実験ガイドライン」のフォロー
- ・動連協/国動協/実験動物学会など、他団体との情報交換

特記事項（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

【令和元年改正の動愛法における附則において記載された2つの検討を行うためのアンケート調査】

① 試験研究機関を「動物取扱業者」に含める等を検討

現行の動愛法では、「動物取扱業」と「試験研究」が区別されている。「動物取扱業」には下記の規制などがある。

- ・【施設登録の拒否・取り消し】自治体によって取り消された場合5年は再申請ができない
- ・【登録情報の一般閲覧】
- ・【終生飼養】

※動物取扱業には2つのカテゴリ（第1種（営利的）、第2種（非営利的））があり、規制は主に第1種を対象とされているが、第2種にも準用されている。

② 3Rすべての義務化も検討

3Rのうち Refinement 苦痛軽減はすでに義務化されているが、Replace 代替法および Reduction 削減は、努力条項となっている。

⇒アンケートの結果、「試験研究機関が動物取扱業になるか否か」、「試験研究機関にどのような措置が

必要となるか」は今後の検討次第

- 実験動物は(産業動物と同様に)、愛玩動物とは別格であることを厳格に維持する必要があると考えます。今回の事前調査は、まずは我が国で動物実験を実施している機関を全て把握すること、ですので、情報共有とコミュニケーションをとることを今後もより一層図っていきます。

ブレインビー委員会 報告事項（兼議事録）

※事前にお目通しください

委員長 奥村 哲

委員 奥村 哲、上窪 裕二、佐倉 緑、櫻井 武、荻（佐藤） 多加之、中川 直、成清 公弥

前回の理事会以降の活動報告

- 第9回脳科学五輪日本大会（2022年大会）の予選は2022年4月9日（土）～24日（日）の日程で、CBT方式で開催し、成績上位7名を入賞者とした。
- 入賞者7名に対して、2022年6月11日（土）、関東・関西の2会場同時で日本大会ファイナルテストを行い、以下の順位を確定させた。
順位（1位から）中川颯、阿部万里花、一高学仁、島田和佳、三好理輝、鳴神諒、下山優里香
- 上記7名に対しては、ファイナルテスト当日に玉川大学脳科学研究所と神戸大学理学部において、ラボ見学を行った（会場提供と見学対応をしてくださった先生方には感謝しています）。
- 今年の入賞者7名と昨年の入賞者5名はNeuro2022のオンライン参加の招待を行った。
- 本年度日本大会1位の中川颯さんについては、世界大会直前勉強会をZOOMで3回開催した。
- Brain Bee World championshipは、7月3日～9日にオンライン開催され、日本代表も出場。
- 全国の高校約4800校のうち、SSHなど感度の高い高校を中心に700校程度を厳選して住所等を整理した。また興味をもつ高校教員リストを作成中
- OB/OGに呼びかけ、2名のOBのBB参加後の活躍について対談した15分程度のビデオを作成し、脳の世紀シンポジウムで発表した。今後、インターネット上でも公開する方向で検討中。

今後、約6ヶ月の活動目標・計画

- 第10回脳科学五輪日本大会（2023年大会）の予選は4月1日から16日の16日間中の日程（土日6日間を含む16日間）で、今年と同じ会場でCBT方式で開催する。また、日本代表最終選抜大会は、5月中に行う。
- 世界大会直前勉強会をZOOMで3～5回程度開催する。
- 世界大会は、8月3～5日にオンライン開催されることが確認された。
 - ▶ 仙台のNeuroscience2023: 8月1日（火）～4日（金）、市民公開講座: 8月5日（土）
- 予選通過者に対して、複数回のラボ見学、Neuroscience2023の招待を予定。
- 本年度日本大会1位の中川颯さんについては、
- Brain Bee World championshipは、7月3日～9日にオンライン開催され、日本代表も出場。
- 全国の高校約4800校のうち、SSHなど感度の高い高校を中心に700校程度を厳選して住所等を整理するとともに、興味をもつ高校教員リストを作成中
- 今年から、世界大会の共通教材が変更になったので、この内容や、予選対策の知識面の勉強ができる独自ZOOM勉強会などを開催し、動画を公開する。

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）

・理事会・拡大執行委員会直後に、第10回大会予選会（CBT）の日程が確定したので、その点を追記、修正した。

2022 年度 後期 生物科学学会連合委員会 活動報告事項（兼 議事録）

添付資料 活動報告書

委員長 宮田麻理子

委員 河崎洋、吉村由美子

前回の理事会以降の活動報告

時：令和 4 年 11 月 28 日(月)16:00-18:00

会場：東京大学理学部 2 号館 講堂 オンサイト

で定例会が行われた。当委員会からはだれも都合がつかなかったため宮田が委任状出席をした

【議事内容（予定）】：

1. 代表挨拶
2. 前回議事録確認について
3. 令和 5・6 年度代表の選出について →次期代表には東原和成氏（東京大学大学院農学生命科学研究科・教授）が選出された。
4. 令和 3 度会計報告について承認
5. 令和 5 年度予算案について承認
6. 新規加盟学会について
7. 関連国際会議について
8. IBO・JBO（国際生物学オリンピック）について
9. 研究費・人材育成委員会について→アンケート調査を行った。
10. 生物教育・大学入試問題検討委員会についてー生物用語について加盟学会に要望を募った今後とりまとめる方針
11. 地球生物プロジェクト委員会について
12. 「未来の学術振興構想」について
13. 内閣府への提言に連名の可否について→連合として 可 （当学会回答 可）
14. 日本学術会議について
15. 国立沖縄自然史博物館の設立活動について
16. 提出先：学術会議「未来の学術振興構想」
内容：「生命科学クロスオーバー研究所」設立についての提案 →連合として 可（当学会回答 可）
17. その他：学会におけるアーカイブコンテンツの著作権等の扱いに関し情報提供

今後、約 6 ヶ月の活動目標・計画

生科連ですすめている研究費・人材育成委員会として研究の多様性を維持するための方策について、加盟学会へのアンケート調査結果を集計し、解析意見書・要望書、活動推進

特記事項

（理事会での質疑応答や、今後の課題、対策、提案などの特記すべき事項があればご記載ください）なし

ブレインビー委員会奥村先生より、生物用語は削られる方向にあるが、共通テストでも神経科学の良質な問題が出ている。用語がないからと言って教えなくてもよいという誤解につながらないように、生物科学連合に伝えてほしい

→ 宮田：生物が単なる記銘の科目でなく科学的論理性をもって理解する科目にしたいという目的で、用語を減らす取り組みをしているので、先生の考えは合致する。そのように伝えたい。

日本神経科学学会会員構成

2023年1月1日現在

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア会員
分子・細胞神経科学	1,836	212	122	17	308	26	47
システム神経科学	1,339	173	107	17	236	26	66
臨床・病態神経科学	599	32	38	4	71	4	14
その他の神経科学	270	30	39	1	152	5	1
パネル不明	10	4	0	0	2	0	0
Total	4,054	451	306	39	769	61	128
名誉会員	18						
賛助会員 (1口10万円) ※	7						
全会員数	5,833						

※成茂科学 10口、他6社はそれぞれ1口

(資料A)

日本神経科学学会本体会計2022年度（1-12月）決算

（資料B）

科 目	2022年度予算	2022年度決算	備 考
収入			
会員入会金	1,200,000	1,632,000	
正会員年会費	37,000,000	39,240,000	
若手会員年会費	1,800,000	1,576,000	
学生会員年会費	1,500,000	2,335,000	
シニア会員	500,000	585,000	
海外正会員	1,000,000	1,255,000	
海外若手会員	90,000	81,000	
海外学生会員	10,000	53,000	
賛助会員年会費	1,600,000	1,600,000	
預金利息	1,000	1,511	
広告料	1,200,000	1,320,000	神経科学ニュース・HPバナー広告 など
事務受託収入	0	416,330	アルトマン賞基金事務受託費、FAONS会計事務受託費
雑収入	400,000	1,757,821	時実基金事務受託費、為替変動差益 など
その他	500,000	500,000	応用脳科学コンソーシアム顧問料
収入計	46,801,000	52,352,662	
支出			
事業費			
ニュース制作費	2,000,000	2,076,800	デザイン費 など
ニュース・HP等英文翻訳費	800,000	433,619	選挙システム・アンケートの英語化費用含む
HPリニューアル費用	500,000	68,200	
会員管理システム開発費用	1,300,000	1,662,100	スマートコア新機能開発費用
奨励賞賞金	510,000	514,740	賞状製作費を含む
国際機関分担金	1,300,000	2,190,638	IBRO 10,000ユーロ、FAONS 5,800ドル
学術活動支援費	150,000	182,000	生科連、脳科連、学術協力財団、男女共同参画学協会加盟金
国際交流費	2,000,000	2,202,874	JNS-FENS Travel Award、JNS-SfN Exchange Travel Award
Brain Bee運営費	1,000,000	1,000,000	
市民公開講座開催支援	1,800,000	0	
産学連携活動	500,000	432,740	
ダイバーシティ対応	0	0	
他学会連携活動	0	0	
将来計画委員会	1,000,000	0	
コンサルティング料	1,000,000	0	
管理費			
人件費	24,000,000	23,266,578	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一部を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費雇用主負担分を含む
IT関連業務委託費	1,200,000	1,308,252	キット・エムとの委託業務契約＋消費税
会員管理システム利用料	1,200,000	1,100,770	スマートコア年間利用料
顧問料	2,500,000	1,225,037	税理士顧問料、月次会計監査費、会計ソフトリース料、社会保険労務士顧問料
会議費	100,000	27,881	
通信費	250,000	298,389	
旅費・交通費	1,000,000	320,922	理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、事務局員出張旅費
印刷費	50,000	102,036	請求書、預金口座振替依頼書、返信用封筒印刷費
備品・消耗品費	800,000	307,532	
事務室賃借料	1,700,000	1,555,920	年間1,420,680円を継続的大会が別途負担
事務機器レンタル料	240,000	57,969	年間240,000円を継続的大会が別途負担
光熱料	200,000	90,647	年間276,000円を継続的大会が別途負担
保険料	0	0	事務室賃貸物件
レンタルサーバー料	800,000	669,940	
入金手数料	2,200,000	2,055,547	年会費集金に伴う手数料
支払い手数料	200,000	130,370	
雑費	100,000	400	
減価償却費	18,620	272,142	
予備費			
	500,000	0	
支出計	50,918,620	43,554,043	
当期収支差額	-4,117,620	8,798,619	
前期からの繰越額			
前期からの繰越額	102,681,242	102,681,242	
次期への繰越額			
次期への繰越額	98,563,622	111,479,861	

次期への繰越額に含まれる資産と負債

2022年12月31日現在

資産	
銀行預金	121,001,193
未収入金	
応用脳科学コンソーシアム顧問料	500,000
固定資産	490,038
資産合計	
121,991,231	
負債	
未払金	
11月分社会保険料	527,043
月次会計監査費 2022年分	179,622
源泉所得税預り金	369,587
前受会費	
2023年会費	139,000
預り金	
アルトマン基金預り金	9,296,118
負債合計	
10,511,370	
次期への繰越額	
111,479,861	

(資料C)

日本神経科学学会本体会計2023年度（1-3月）予算

（資料D）

科 目	2023年予算	備 考
収入		
会員入会金	0	
正会員年会費	0	
若手会員年会費	0	
学生会員年会費	0	
シニア会員	0	
海外正会員	0	
海外若手会員	0	
海外学生会員	0	
賛助会員年会費	0	
預金利息	0	
広告料	0	
事務受託収入	0	
雑収入	0	
その他	0	
収入計	0	
支出		
事業費		
ニュース制作費	500,000	PDF版編集費（No1のみ）
ニュース・HP翻訳費用	200,000	
HPリニューアル費用	600,000	研究室リスト・マップ検索システム開発費用
会員管理システム開発費用		
奨励賞賞金		
国際機関分担金		
学術活動支援費		
国際交流費		
Brain Bee運営費		
市民公開講座開催支援		
産学連携活動		
ダイバーシティ対応		
他学会連携活動		
将来計画委員会		
コンサルティング料		
管理費		
人件費	5,000,000	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一部を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費雇用主負担分を含む
IT関連業務委託費	330,000	キッツ・エムとの委託業務契約+消費税
会員管理システム利用料	1,200,000	スマートコア年間利用料
顧問料	300,000	税理士顧問料、月次会計監査費、会計ソフトリース料、社会保険労務士顧問料、他
会議費	0	会場費、機材費、飲食費、Zoom契約費用
通信費	70,000	電話代、プロバイダー料金、郵送料、運送料
旅費・交通費	50,000	理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、事務局員出張旅費
印刷費	0	学会ロゴ入り封筒印刷費
備品・消耗品費	0	PC購入費用等含む
事務室賃借料	400,000	月額118,390円を継続的大会が別途負担
事務機器レンタル料	20,000	月額20,000円を継続的大会が別途負担
電話・光熱料	50,000	月額23,000円を継続的大会が別途負担
保険料	30,000	事務室火災保険
レンタルサーバー料	170,000	
入金手数料	200,000	年会費集金に伴う手数料
支払い手数料	32,000	
雑費	20,000	
減価償却費	68,000	
予備費		
	120,000	
支出計	9,360,000	
当期収支差額	-9,360,000	
前期からの繰越額		
前期からの繰越額	111,479,861	
次期への繰越額	102,119,861	

日本神経科学学会本体会計2023年度（4-12月）予算

(資料E)

科 目	2023年予算	備 考
収入		
会員入会金	0	
正会員年会費	0	
若手会員年会費	0	
学生会員年会費	0	
シニア会員	0	
海外正会員	0	
海外若手会員	0	
海外学生会員	0	
賛助会員年会費	0	
預金利息	0	
広告料	0	
事務受託収入	0	
雑収入	0	
その他	0	
収入計	0	
支出		
事業費		
ニュース制作費	0	
ニュース・HP翻訳費用	0	
HPリニューアル費用	0	
会員管理システム開発費用	0	
奨励賞賞金	0	
国際機関分担金	0	
学術活動支援費	0	
国際交流費	0	
Brain Bee運営費	0	
市民公開講座開催支援	0	
産学連携活動	0	
ダイバーシティ対応	0	
他学会連携活動	0	
将来計画委員会	0	
コンサルティング料	0	
管理費		
人件費	0	
IT関連業務委託費	0	
会員管理システム利用料	0	
顧問料	0	
会議費	0	
通信費	0	
旅費・交通費	0	
印刷費	0	
備品・消耗品費	0	
事務室賃借料	0	
事務機器レンタル料	0	
電話・光熱料	0	
保険料	0	
レンタルサーバー料	0	
入金手数料	0	
支払い手数料	0	
雑費	0	
減価償却費	0	
予備費		
予備費	500,000	
残余財産	101,619,861	一般社団法人 日本神経科学学会に譲渡
支出計	102,119,861	
当期収支差額	-102,119,861	
前期からの繰越額		
前期からの繰越額	102,119,861	
次期への繰越額		
次期への繰越額	0	

一般社団法人 日本神経科学学会 2023年度（2023年4月-2024年3月）予算

(資料F)

科 目	2023年予算			備 考
	学会会計	NSR会計	合計	
収入				
会員入会金	1,200,000		1,200,000	3,000円×400名
正会員年会費	37,000,000		37,000,000	10,000円×3,600名（完納率 90%想定）
若手会員年会費	1,380,000		1,380,000	6,000円×230名（完納率 74%想定）
学生会員年会費	1,800,000		1,800,000	3,000円×600名（完納率 90%想定）
シニア会員	600,000		600,000	5,000円×120名（完納率 95%想定）
海外正会員	1,250,000		1,250,000	5,000円×250名（完納率 50%想定）
海外若手会員	90,000		90,000	3,000円×30名（完納率 90%想定）
海外学生会員	50,000		50,000	1,000円×50名（完納率 90%想定）
賛助会員年会費	1,600,000		1,600,000	7社
預金利息	1,000		1,000	
広告料	1,080,000		1,080,000	神経科学ニュース目次配信広告、HPバナー広告
事務受託収入	500,000		500,000	時実基金事務受託費、アルトマン賞基金事務受託費、FAONS会計事務受託費
雑収入	0		0	
その他	500,000		500,000	応用脳科学コンソーシアム顧問料
NSR 2023年度編集費		6,000,000	6,000,000	エルゼビアから
NSR 2022年度Royalties		3,000,000	3,000,000	過去の実績から予測
NSR 利息		50	50	
NSR エルゼビアシンポジウム助成		520,000	520,000	エルゼビアから 4,000EURO
NSR 論文賞用賞金		130,000	130,000	エルゼビアから 1,000EURO
収入計	47,051,000	9,650,050	56,701,050	
支出				
事業費				
ニュース制作費	2,500,000		2,500,000	PDF版編集費、HTML版作成費
ニュース・HP翻訳費用	700,000		700,000	
HPリニューアル費用	800,000		800,000	神経科学ニュースハイブリッド化初期費用
会員管理システム開発費用	1,500,000		1,500,000	スマートコア新機能開発費用
奨励賞賞金	520,000		520,000	賞状製作費を含む
国際機関分担金	2,000,000		2,000,000	IBRO 10,000ユーロ、FAONS 5,800ドル
学術活動支援費	150,000		150,000	生科連、脳科連、学術協力財団、男女共同参画学協会加盟金
国際交流費	2,200,000		2,200,000	JNS-FENS Travel Award、JNS-SfN Exchange Travel
Brain Bee運営費	1,000,000		1,000,000	
市民公開講座開催支援	3,000,000		3,000,000	2回分（科学未来館＆仙台市内開催）
アウトリーチ委員会	200,000		200,000	
産学連携活動	600,000		600,000	
ダイバーシティ対応	500,000		500,000	
他学会連携活動	100,000		100,000	
将来計画委員会	500,000		500,000	
管理費				
人件費	24,500,000		24,500,000	NSR関連業務の人件費の一部をNSR会計が別途負担、大会関連業務の人件費の一部を継続的大会が別途負担。通勤交通費、社会保険費雇用主負担分を含む
IT関連業務委託費	1,320,000		1,320,000	キッツ・エムとの委託業務契約＋消費税
会員管理システム利用料	1,200,000		1,200,000	スマートコア年間利用料
顧問料	1,600,000		1,600,000	税理士顧問料、月次会計監査費、会計ソフトリース料、社会保険労務士顧問料、弁護士・司法書士相談料、法人化関連費
会議費	100,000		100,000	
通信費	300,000		300,000	
旅費・交通費	1,000,000		1,000,000	理事会・委員会旅費、加盟学協会への参加旅費、事務局員出張旅費
印刷費	100,000		100,000	年会費請求書発送時の同封物印刷費
備品・消耗品費	800,000		800,000	
事務室賃借料	1,600,000		1,600,000	
事務機器レンタル料	100,000		100,000	
電話・光熱料	150,000		150,000	
保険料	0		0	
レンタルサーバー料	800,000		800,000	
入金手数料	2,200,000		2,200,000	年会費集金に伴う手数料
支払い手数料	200,000		200,000	振込手数料他
雑費	100,000		100,000	
減価償却費	300,000		300,000	
予備費				
	500,000		500,000	
NSR				
表紙デザイン費		0	0	
事務費		9,120,000	9,120,000	人件費の一部を含む
契約更改関連費		1,000,000	1,000,000	コンサルティング費用
管理費		5,000	5,000	銀行手数料
エルゼビアシンポジウム助成		520,000	520,000	シンポジウム@第46回大会（仙台）
NSR論文賞用賞金		130,000	130,000	Best Paper Award受賞者に送金
プロモーション費用		150,000	150,000	大会へのブース出展、配布用うちわ作製費用
雑費		0	0	
支出計	53,140,000	10,925,000	64,065,000	
当期収支差額	-6,089,000	-1,274,950	-7,363,950	